



とした、現職と在宅(退加、市町村保健活動の基  
職者)の二つの組織が存 礎資料となる調査・研 健康相談を中心に、就業  
在します。いずれも大分 究、そして市町村のタイ の有無に関係なく、「一生  
県国民健康保険団体連合 ムリーな情報を共有する 現役」の精神で地域貢献  
会(国保連合会)に事務 ための広報事業(広報誌 活動を展開しています。  
局を置いています。

「おおいたの風」の発行) 退職後も専門職としての  
大分県市町村保健活動 など多岐にわたります。 誇りを持ち、地域に根ざ  
研究協議会(以下、協議 これらの活動は、現場の した活動を続ける諸先輩  
会)は、「見る・つなが 課題を汲み取り、より良 方の存在は、現職の我々  
る・動かす、いきいきと い住民サービスへと還元 にとっても大きな励みと

## おおいたの風に乗せて

大分県には、市町村保 した保健活動」をスロー するための貴重な研鑽の なっています。

健事業を行う保健師等の ガンに揭げています。県 場となっています。 本県では、協議会が設

資質向上と関係者間の連 下18市町村の保健師主管 一方、在宅保健師等「虹 立された昭和53年以来、  
携強化を図ることを目的 課長・保健師・管理栄養 の会」の会員は現在68名 市町村保健師等が地域で

士の全員が加入してお で、その約半数が現在も のタテ・ヨコの連携を重  
り、近年の会員数は42 何らかの形で就業してい 視した保健活動を展開で  
0人前後を推移していま ます。自己研鑽のための きるよう、顔の見える関  
す。 研修会参加に加え、市町 係構築、いわゆる「つな

主な事業は、県内外で 村・国保連合会事業への ぐ・つながる」に努めて  
の研修会や学会への参 協力、行政や関係機関等 きました。特に近年、D

## つなぐ・つながる保健活動

大分県市町村保健活動研究協議会副会長 畑 良子

Xの進展や複雑化する住 生会議(ACP)と最後 このような協働ができ  
民ニーズへの確に対応す まで自分らしく」をテ されるのも、諸先輩から継承  
るためには、組織の枠を ーマに、講演会と、この された大分県市町村保健  
超えたつながりが不可欠 地域の中でどのような取 師等の強みです。時代の  
です。現職と在宅が世代 り組みが今後必要か(で 変化とともに保健活動の  
を超えて知見を共有し、 きるか)など、お互いの 形は変わっても、人を想  
多角的な視点を学ぶ「対 思いや考えを伝え合い、 う根底の精神は変わりま  
話の場」を設けるため、 まさに「つなぐ・つな せん。これからも、この  
年に数回、合同研修会を る・動かす」ための実効 二つの組織の活動を通し  
開催しています。 性のある対話の場となり て保健師等の仲間が「つな  
私が所属する豊肥地区 ました。 がり、地域住民を優しく

(竹田市・豊後大野市) 過疎・高齢化が深刻な

包み込む「おおいたの風」

には、現職・在宅を合わ 地域において不可欠なの となって、住民も保健師  
せて約40人の保健師等が は、世代を超えたスキル 等も誰もが元気に自分ら  
います。この2市は県内 の融合です。在宅の保健 しく輝き、そして、その  
でも高齢化率が特に高 師等が長年の経験で培っ 先に待つ健康寿命の延伸  
く、限られた資源の中 ってきた「地域を見る目」 を目指したいと考えま  
いかに関係者がつな ぐや「住民への寄り添い す。

り、効率的かつ効果的な 方」。これらを現職が受 け継ぎ、さらに具体的な  
保健サービスを展開でき 事業へと落とし込んで 生活課参事兼健康推進室  
るかが大きな課題です。 先般1月29日に開催した 「地域を動かす」。この 長

合同研修会には約半数の 循環を大切にしたいと考 会員が出席しました。「人 えています。